

# NEWS LETTER

*Institute of Social Safety Science*

## 地域安全学会ニュースレター No. 116 —目次—

1. 第49回（2021年度）地域安全学会研究発表会（秋季）  
開催要領 1
2. 第49回（2021年度）地域安全学会研究発表会（秋季）  
一般論文募集 3
3. 地域安全学会論文集 No.40（電子ジャーナル）の募集と  
投稿方法 10
4. 総会等報告 12
5. 寄稿  
基礎自治体指定の緊急輸送道路と地域連携  
千葉 啓広（名古屋大学減災連携研究センター） 32
6. 書籍紹介  
(1) 日本家政学会編『住まいの百科事典』 37



地域安全学会ニュースレター  
ISSS News Letter

No. 116  
2021. 8

# 1. 第49回（2021年度）地域安全学会研究発表会（秋季）開催要領

第49回（2021年度）地域安全学会研究発表会（秋季）を、新型コロナウイルス感染症の拡大状況等を考慮し現状では、「静岡県地震防災センター」において対面で開催することを基本としながらも、オンラインでの発表や参加も可能とし、下記の要領で開催することを予定しております。ただし、今後の新型コロナウイルス感染症の拡大状況等を踏まえ、方針を変更しオンライン方式のみの開催となる場合もありますので予めご承知おきください。

地域の安全、安心、防災に関心のある多くの方々の参加により、活発な発表、討議、意見の交流が行われることを期待いたします。奮ってご参加下さい。

## (1) 研究発表会

■日時：令和3年10月30日（土）～10月31日（日）

■参加形態：対面あるいはオンライン（現段階では両者併用を想定）

■場所：静岡県地震防災センター

〒420-0042 静岡市葵区駒形通り 5-9-1

TEL：054-251-7100

<http://www.pref.shizuoka.jp/bousai/e-quake/access/index.html>



□徒歩：県庁またはJR静岡駅より、徒歩約25分（約2キロメートル）

□バス利用：JR静岡駅下車、静鉄バス「静岡駅前7番乗り場」中部国道線「本通十丁目」下車徒歩3分、「静岡駅前11番乗り場」西部循環駒形回り線「駒形五丁目」で下車、徒歩2分

□車利用：東名静岡インターを降り、「インター通り」を北進、国道1号の交差点を右折、2つ目の信号「清閑町」交差点を左折し、「しあわせ通り」を左側

■スケジュール \*論文の採択本数によりスケジュールは多少変更することがあります。詳しくは10月号を参照下さい。

- |              |             |                         |                   |
|--------------|-------------|-------------------------|-------------------|
| (1)10月30日（土） | 10:00～      | 受付開始（静岡県地震防災センター2F）     |                   |
|              | 10:30～10:40 | 開会あいさつ                  |                   |
|              | 10:40～12:15 | 査読論文発表                  |                   |
|              | 12:15～13:30 | 昼休み                     |                   |
|              | 13:30～17:00 | 査読論文発表                  | <u>*懇親会は行いません</u> |
|              |             |                         |                   |
| (2)10月31日（日） | 9:00～       | 受付開始（静岡県地震防災センター2F）     |                   |
|              | 9:30～12:15  | 査読論文発表                  |                   |
|              | 12:15～14:30 | 昼休み & 一般論文発表（ポスターセッション） |                   |
|              |             | （コアタイム：13:00～14:30）     |                   |
|              | 14:45～16:45 | 査読論文発表                  | <u>*懇親会は行いません</u> |

■参加費：無料（ただしオンライン参加については、事前申し込みが必要。申し込み方法等については10月号をご参照ください。）

\*また、参加して頂くためには、Zoom等の会議に参加するためのパソコン、タブレット、スマホ等の機器と通信環境が必要となります。

## ■論文集・梗概集

- ・論文集・梗概集のファイルを事前にインターネット上で公開する予定です。（詳しくは10月号参照）
- ・査読論文筆頭著者には、論文集を1冊贈呈しております。
- ・対面参加の方々のうち希望する方には、会場にて1冊4千円で論文集を販売を予定しております。

## (2) 一般論文発表（ポスターセッション）の実施方法

- ・一般論文発表については、オンライン形式のみとさせていただきます。理由は、対面でのポスター発表形式では、発表者と聞き手の距離の確保が難しく、感染防止対策が困難なためです。
- ・一般論文発表の参加申し込み、梗概集原稿の提出までは、これまでと同じ手続きになります。
- ・発表用のポスターについては、事前にPDFファイルでご提出頂き、大会前から公開させていただきます。
- ・また、発表者のうち、事前に優秀発表賞の審査への応募をして下さった方には、事前に発表用動画の作成・提出を必須とさせていただきます。発表動画は事前に公開させていただきます。
- ・発表動画は、5分以内（厳守）で所定の方法で学会宛に提出して頂きます。なお、詳しい仕様と提出方法等については、ニューズレター10月号や学会HP上に掲載するように致します。
- ・質疑応答については、チャット・ツールのslackを使ってやり取りをして頂くこととなります。詳しい操作方法等については、ニューズレター10月号や学会HP上に掲載するように致します。
- ・コアタイム時間中は、発表者はslackにて必ず質疑等に対応して頂きます。
- ・質疑への参加者は、予め事前公開されているポスター（PDFファイル）と（動画がある場合は）当該動画を見た上で参加して下さい。
- ・地震防災センター3階の大会議室を「オンライン参加コーナー」として開放致します。対面参加で会場に來られた発表者や参加者の方々が、ポスターセッションに参加しようとした場合に参加しやすいように、通信環境の整った「オンライン参加コーナー」を設置致します。

## 2. 第49回(2021年度)地域安全学会研究発表会(秋季)一般論文募集

### (1) 投稿要領

地域安全学会 秋季研究発表会実行委員会

会員各位におかれましては、お忙しい日々をお過ごしのことと存じます。

さて、第49回(2021年度)地域安全学会研究発表会(秋季)を下記の通り開催いたします。本年は新型コロナウイルス感染症拡大の状況を踏まえ、研究発表会全体を**対面形式**と**オンライン形式**の併用で行います。しかしながら一般論文の発表形式は、例年の**ポスター発表形式**から**事前の資料提出・公開 + リアルタイムでのオンライン形式の質疑**に変更させていただきます。対面でのポスター発表は行いません。なお、Eメールによる**事前登録が必要**です。また梗概集原稿はPDFファイルに変換し、Eメールで投稿する形式になっております。このような状況下ではありますが、ふるってご応募くださいますようお願い申し上げます。

#### I. 開催日時・場所

##### (1) 日時：**令和3年10月31日(日)**(一般論文発表)

一般論文の質疑応答は10月31日(日)13:00~14:30(コアタイム)において、各発表者全員がチャット・ツールのslackを使って同時並行で行います。詳しくは10月号を参照下さい。

##### (2) 発表・質疑の方法

①まず、発表者が発表内容をポスター形式で作成し、PDFファイルにして事前に提出して頂きます。事務局が大会参加者にネットを通じて事前に当該ファイルを公開いたします。

②発表者のうち、梗概原稿提出時に、**優秀発表賞の審査に応募された方は**、事前の指定された期限までに**発表動画(5分以内/厳守)を作成し所定の方法で学会宛に提出して頂きます。**(詳細はニュースレター10月号参照)

③発表日のコアタイムの時間に、各発表者全員がチャット・ツールのslackを使って同時並行で質疑応答を行って頂きます。

④slack等を使ったオンライン形式での質疑応答にはパソコン、タブレット、等の機器と通信環境が必要となります。

\*対面参加で会場にいられた発表者や参加者の方々が、ポスターセッションに参加しようとした場合に参加しやすいように、通信環境の整った「オンライン参加コーナー」を地震防災センター3階大会議室に設置致します。

#### II. 梗概原稿の投稿方法

一般論文発表をして頂くには、**Eメールによる登録を行っていただく必要があります。**発表形式は、**事前の資料提出・公開 + リアルタイムでのオンライン形式の質疑のみ**となります。

##### II-1. Eメールによる登録

(1) 登録期限：令和3年9月10日(金)

(2) 宛先：ippan-aki@iss.info

(3) 登録内容、書式：

1行目 「地域安全学会一般論文登録」と入力してください。

2行目 論文題目

3行目 筆頭著者氏名

4行目 筆頭著者所属

5行目 筆頭著者連絡先住所(郵便番号も)

6行目 筆頭著者Eメールアドレス

7行目 筆頭著者電話番号

8行目 筆頭著者ファックス番号

9行目 連名著者がいない場合は論文概要(250字以内)、いる場合はその氏名、所属を1行に1名ずつ記入、改行後、論文概要(250字以内)

注)発表者がわかるように氏名に○をつけてください。

(4) その他：

(a) 登録時の論文概要を発表会プログラムと共に、次号のニュースレター10月号および学会ホームページに掲載する。

(b) 発表は一人一編のみ

(c) 登録完了後、事務局より受付番号の入った登録受理メールをお送りします。

##### II-2. 梗概集原稿の送付

(1) 送付期限：令和3年9月27日(月)

(2) 論文形式：

(a) 次ページに掲載してある投稿形式参照。なお、当学会のホームページ([www.iss.info](http://www.iss.info))に掲載のMS-Wordテンプレートをダウンロードの上、利用可能。

(b) A4版、4ページ以内。PDFファイルに変換したものを投稿してください。投稿されたPDFファイルを白黒出力し印刷します。

(3) 送付先

(a) E-mail: ippan-aki@iss.info

(PDFファイルをe-mailにて送付してください)

(4) 梗概原稿送付時のメールの書式：

1行目 **「優秀発表賞に応募します」あるいは「優秀発表賞に応募しません」というどちらかを明記ください。**

\*「優秀発表賞」については、本投稿要領の「V. 優秀発表賞の事前応募登録」をお読みください。

2行目 Eメールによる発表登録受理メールにて返信された受付番号

3行目 筆頭著者(=優秀発表賞の応募登録者)の氏名

4行目 筆頭著者所属

##### II-3. ポスター(PDFファイル)の送付

(1) 送付期限：令和3年10月21日(木)

(2) 形式：PDFファイル

- (3) ポスターの内容：  
著者の所属・氏名、発表の目的、内容、結論をコンパクトに記述のこと。与えられた大きさの中で、視覚に訴えるよう多色使いとし、図表、写真等を自由に使ってください。
- (4) ポスターの大きさ等：  
A0 サイズでプリントアウトしたものをういてプレゼンテーションすることを想定（実際はプリントアウトはしません）して文字や図表等の大きさを適切に設定して下さい。
- (5) 送付先  
(a) E-mail: [ippan-aki@issss.info](mailto:ippan-aki@issss.info)  
(PDF ファイルを e-mail にて送付してください)

## II-4. 発表動画の学会への提出

### \* 梗概原稿提出時に、優秀発表賞の審査に応募された方のみが対象

- (1) 期限：令和3年10月21日（木）
- (2) 要件：  
(a) 長さは5分以内（厳守）。  
(b) 詳細はニューズレター10月号および学会ホームページに掲載する。  
(c) 提出された発表動画は事前に公開させていただきます。

## III. 投稿料の納入

- (1) 投稿料：10,000円（梗概集原稿4ページ以内厳守）
- (2) 投稿料の納入方法
- ① 期限：令和3年9月27日（月）までに②宛てに振り込んでください。
  - ② 振込先：  
銀行：りそな銀行 市ヶ谷支店（店番号725）  
口座名：一般社団法人地域安全学会 秋季研究発表会口座  
口座種別・番号：普通預金 1745849  
振込者名：筆頭著者氏名
  - ③ その他：振り込みの際には、登録受理メールにて返信された受付番号を筆頭著者氏名の前に入力してください。
  - ④ 注意：査読論文の登載料振り込み口座とは異なりますのでご注意ください。

## IV. 優秀発表賞の事前応募登録（地域安全学会 表彰委員会）

地域安全学会では、平成24年度から春季・秋季研究発表会での一般論文の研究発表（口頭発表・ポスター発表）を対象として優秀発表賞を設置し、表彰を行っています。来たる令和3年10月に実施される第49回（2021年度）地域安全学会研究発表会(秋季)一般論文については、下記要領で実施します。

事前に応募登録された方のみを対象に選考するものとし、受賞資格を下記のように設けていますのでご確認の上、必ず下記の方法にて応募登録をお願いします。大学院生をはじめとする若手会員の皆さんや新たに研究活動を始められた方々の活発な研究活動を奨励することを目的としております。奮って応募していただくようお願いいたします。

### ■「優秀発表賞」応募登録の方法

- ・論文本文送付時に情報を記載する。詳しい方法については、「II. 投稿方法」の「II-2. 本文の送付」の「(4) 本文送付時のメールの書式」を参照してください。

### ■地域安全学会研究発表会(秋季)での実施要領

- ・授賞対象：  
「地域安全学会優秀発表賞」の授賞対象者は、地域安全学会 研究発表会（春季・秋季）での一般論文の研究発表（口頭発表・ポスター発表）の発表者であり、原則、研究実施または論文作成において指導を受ける立場にある40歳（当該年度4月1日時点）未満の者とする。ただし、実務者等は研究歴等を考慮し年齢規定を緩和することもある。再受賞は認めない。また、予定された発表者ではない代理発表者及び一般論文登録時に審査を希望しない旨登録した者は対象外とする。
- ・授賞件数：若干名（当日の選考結果発表会に出席できる者）
- ・選考方法：発表の内容、プレゼンテーション（発表動画）、質疑応答（slack）の総合評価
- ・選考結果：後日、学会HP、ニューズレター等で発表する。

## (2) 投稿規程

### 一般論文投稿規程

平成21年7月

令和3年7月改定

地域安全学会 研究発表会実行委員会

#### 1. 一般論文投稿分野

地域社会の安全問題、解決策についての横断的な幅広い分野の研究・技術・実務などを論ずるもの、あるいは具体的な提言に関するもの。

#### 2. 投稿者

論文の筆頭著者は、地域安全学会会員に限り、研究発表会において発表し、かつ討議に参加しなければならない。

#### 3. 投稿先

地域安全学会研究発表会実行委員会の宛先とする。

#### 4. 発表方法

一般論文の発表方法は「口頭発表」~~または~~「ポスター発表」~~または~~「オンライン発表」による。筆頭著者（発表者）1人につき、1演題に限るものとする。

#### 5. 投稿手続き

5-1投稿期限：投稿期限は、地域安全学会研究発表会に先だって会告する。

5-2投稿原稿の内容：投稿原稿は、1編で完結したものとし、同一テーマのものとシリーズ発表は受け付けない。また、秋の研究発表会については、同一会期内で開催される研究発表会で発表する査読論文とは異なるものとする。

5-3使用言語：投稿論文に使用可能な言語は、和文または英文でなければならない。

5-4提出原稿の様式：投稿者は、期日までに「地域安全学会梗概集」に登載するための「印刷用オリジナル原稿」を地域安全学会研究発表会実行委員会事務局まで提出しなければならない。提出原稿は、「一般論文投稿形式」によるものとし、図・表・写真を含め、PDFファイルで提出するものとする。

~~PDFファイルを白黒出力したものを印刷用の版下原稿とする。~~

#### 6. 著作権

6-1 著者は掲載された論文等の「著作権」を本会に委託する。

6-2 著者が自らの用途のために自分の掲載論文等を使用することについて制限はない。なお、論文等をそのまま他の著作物に転載する場合にはその旨を明記する。

6-3 掲載された論文等の編集著作権、出版権は本会に帰属する。

6-4 第三者から本会に対して、論文等の翻訳、図表の転載の許諾要請があった場合、著者に通知し許諾を求める。ただし既に本会会員として所属せず、連絡不能な場合はこの限りでない。

6-5 著者は、本会または本会が許諾した者の利用に伴う変形については「同一性保持権」を行使しないものとする。

6-6 論文等の内容が第三者の著作権を侵害するなど、第三者に損害を与えた場合は著者がその責を負う。

6-7 論文等の著作権の使用に関して本会に対価の支払いがあった場合は、本会会計に繰り入れて、学会

活動に有効に活用する。

### (3) 執筆要領と投稿形式

## 地域安全学会講演概要集の執筆要領と和文原稿作成例

### Guideline for Manuscript and Japanese Paper Sample of the Proceedings of Social Safety Science

地域 太郎<sup>1</sup>, ○安全 花子<sup>2</sup>  
Taro CHIIKI<sup>1</sup> and Hanako ANZEN<sup>2</sup>

<sup>1</sup> 地域安全大学 情報工学科

Department of Information Technology, Chiiki Anzen University

<sup>2</sup> 防災科学コンサルタント(株) 防災技術部

Department of Disaster Mitigation Engineering, Bousai Kagaku Consultants Co., Ltd.

The present file has been made as a print sample for the Proceedings of ISSS. The text of this file describes, in the camera-ready manuscript style, instructions for preparing manuscripts, thus allowing you to prepare your own manuscript just by replacing paragraphs of the present file with your own, by CUT & PASTE manipulations. Both left and right margins for your Abstract should be set 1 cm wider than those for the text of the article. The font used in the abstract is Times New Roman, 9pt, or equivalent. The length of the abstract should be within 7 lines.

**Key Words** : Times New Roman, italic, 9 point font, 3 to 6 words, one blank line below abstract, indent if key words exceed one line

#### 1. レイアウト

##### (1) マージン等

- ・上下：各 20mm, 左右：各 20mm
- ・二段組み本文の段組間隔は 8mm

##### (2) フォント等

- ・題目：和文はゴシック 14pt, 中央揃え, 左右各 30mm のマージン。  
英文は Times New Roman 12pt, 中央揃え, 左右各 30mm のマージン。
- ・著者名：和文は明朝 12pt, 中央揃え, 左右各 30mm のマージン。  
英文は Times New Roman 12pt, 中央揃え, 左右各 30mm のマージン。
- ・著者所属：和文は明朝 9pt, 左揃え 30mm のマージン。  
英文は Times New Roman 9pt, 左揃え 30mm のマージン。
- ・アブストラクト：英文 Times New Roman 9pt, 左揃え, 左右各 30mm のマージン。
- ・キーワード：Times New Roman, italic, 9pt, 3-6 語, 2 行以内, 左右各 30mm のマージン。  
“Key Words” はボールドイタリック体。
- ・本文：明朝 9pt, 行替えの場合は 1 字下げ。  
一章の見出し：ゴシック 10pt, 左寄せ  
一節、項の見出し：ゴシック 9pt, 左寄せ  
一図、表、写真のキャプション：ゴシック 9pt, 中央揃え
- ・補注、参考文献の指示：明朝 9pt の右肩上付き 1/4 角を原則としますが、各学問分野の慣例に従っても構いません。
- ・補注(必要な場合)：“補注” はゴシック 10pt, 左寄せ, 補注自体は、明朝 8pt。
- ・参考文献：“参考文献” はゴシック 10pt, 左寄せ。参考文献自体は、明朝 8pt。

##### (3) 行数および字数

二段組みとし、一段当りの幅は 81mm, 1 行当り 25 字, 行間隔は 4.3mm で, 1 ページ当り 60 行を標準として下さい。したがって, 文章のみのページでは 1 ページ当り 3,000 字が標準的な字数となります。

##### (4) 総ページ数

題目から参考文献までを含めて, 最大 4 ページの偶数ページとして下さい。

#### 2. 英文論文への適用

本文を英文とする論文の執筆要領は, 本文が和文であることを前提として作成した本「執筆要領」に準拠して下さい。しかし, 英文の場合は, 和文のタイトル, 著者名, 所属は不要です。

本文のフォントは, Times New Roman 9pt を基本として使用して下さい。

#### 3. 印刷用オリジナル原稿

「地域安全学会講演概要集」は, 定められた期日までに, 印刷用オリジナル原稿を提出していただきます。

印刷用オリジナル原稿とは, 印刷・出版用の高度なタイプライタートもしくはコンピューターシステムを用いて作成され, そのままオフセット印刷にかけられる完全な体裁に整えられた原稿を指します。

#### 4. 著作権と著者の責任

「地域安全学会講演概要集」に記載された個々の著作物の著作権は著者に属し, 原稿の内容については著者が責任を持つこととなります。したがって, 印刷後発見された誤植や内容の変更はできません。誤植の訂正や内容の変更が必要な場合は, 著者の責任において, 文書で, 当該論文が掲載されている「地域安全学会講演概要集」所有者に周知して下さい。

## (4) 地域安全学会研究発表会における「技術賞」の応募登録のお知らせ

地域安全学会 表彰委員会

地域安全学会では、平成20年度から、「地域社会における安全性および住民の防災意識の向上を目的として開発され、顕著な貢献をしたすぐれた技術（システム、手法、防災グッズ、情報技術、マネジメント技術を含む）」を対象として「技術賞」を創設し、表彰を行っています。平成25年度から、広く会員への周知を図るとともに、一般論文投稿時に筆頭著者から応募登録を受け付けることで審査対象を広げ、別途応募書類を作成する事なく一次選考対象に加えることにしています。

なお、この応募登録の有無にかかわらず、従来通り10月に改めて技術賞候補の推薦を公募した際に申請書類を提出していただいて、新たな成果を追加し再応募することも可能です。審査会は、今年度のすべての応募を対象に年一回行われます。

同じく一般論文を対象とした「優秀発表賞」とは審査の視点や対象が異なるため、重複応募登録は妨げません。奮って応募していただくようお願いします。

■研究発表会(秋季)における「技術賞」応募登録の方法は以下の要領でお願いします。

論文本文送付時に、論文を送付したメールとは別便のメールで以下の情報を記載して下さい。

- (1) 登録期限：一般論文の梗概原稿送付期限と同じ
- (2) 宛先：一般論文の送付先メールアドレスと同じ： ippan-aki@isss.info
- (3) 応募登録内容、書式：
  - ・メール本文に以下の情報を記載する。
  - 1行目 「技術賞に応募します」と入力してください。
  - 2行目 Eメールによる発表登録受理メールにて返信された受付番号  
(以下の①～⑤についてそれぞれ400字以内で述べてください。該当しない項目は、「該当なし」と記載願います)
  - 3行目 当該技術の「①実績・開発期間」
  - 4行目 当該技術の「②有用性・実用性」
  - 5行目 当該技術の「③革新性・新規性」
  - 6行目 当該技術の「④一般性・汎用性」
  - 7行目 当該技術の「⑤将来性・展開性」
  - 8行目 筆頭著者（＝技術賞の応募登録者）の氏名
  - 9行目 筆頭著者の所属
  - 10行目 筆頭著者連絡先住所（郵便番号も）  
(自宅以外の場合は、所属部課名，研究科／専攻名，研究室名などを最後まで正確に記載)
  - 11行目 筆頭著者のE-メールアドレス

■研究発表会(秋季)の査読論文、並びに電子ジャーナル論文投稿時における、著者からの「技術賞」応募登録制度はありませんが、学術委員会による推薦制度が設けられています。

## (5) 研究発表会（秋季）「優秀発表賞」事前応募登録のお知らせ

地域安全学会 表彰委員会

地域安全学会では、平成24年度から春季・秋季研究発表会での一般論文の研究発表（口頭発表・ポスター発表・オンライン口頭発表）を対象として優秀発表賞を設置し、表彰を行っています。来たる令和3年10月に実施される第49回（2021年度）地域安全学会研究発表会（秋季）一般論文（事前の資料提出・公開 + リアルタイムでのオンライン形式の質疑）については、下記要領で実施します。

事前に応募登録された方のみを対象に選考するものとし、受賞資格を下記のように設けていますのでご確認の上、必ず下記の方法にて応募登録をお願いします。大学院生をはじめとする若手会員の皆さんや新たに研究活動を始められた方々の活発な研究活動を奨励することを目的としております。奮って応募していただくようお願いいたします。なお、優秀発表賞に事前応募した方は、「(1)投稿要領」の「II. 投稿方法」の「II-4. 発表動画の学会への提出」に記載された指示に従って発表動画を事前に提出して頂くことが必須となりますので、ご注意ください。 選考結果は後日、学会HP、ニューズレター等で発表します。

### ■「優秀発表賞」応募登録の方法

- ・研究発表会実行委員会への論文本文送付時に、メール本文に以下の情報を記載する。
  - 1行目 「優秀発表賞に応募します」と入力してください
  - 2行目 Eメールによる発表登録受理メールにて返信された受付番号
  - 3行目 筆頭著者（＝優秀発表賞の応募登録者）の氏名
  - 4行目 筆頭著者の所属

\*論文本文送付時に情報を記載する方法については、本ニューズレター「2. 第49回（2021年度）地域安全学会研究発表会（秋季）一般論文募集」の「(1)投稿要領」の「II. 投稿方法」の「II-2. 梗概原稿の送付」の「(4)梗概原稿送付時のメールの書式」にも記載されています。

### ■地域安全学会研究発表会（秋季）での実施要領

- ・授賞対象：  
「地域安全学会優秀発表賞」の授賞対象者は、地域安全学会 研究発表会（春季・秋季）での一般論文の研究発表（口頭発表・ポスター発表）の発表者であり、原則、研究実施または論文作成において指導を受ける立場にある40歳（当該年度4月1日時点）未満の者とする。ただし、実務者等は研究歴等を考慮し年齢規定を緩和することもある。再受賞は認めない。また、予定された発表者ではない代理発表者及び一般論文登録時に審査を希望しない旨登録した者は対象外とする。
- ・授賞件数：若干名（当日の選考結果発表会に出席できる者）
- ・選考方法：口頭発表の内容、プレゼンテーション、質疑応答の総合評価
- ・選考結果：大会当日の懇親会で発表する

### 3. 地域安全学会論文集 No. 40（電子ジャーナル）の募集と投稿方法

2021年7月  
地域安全学会 学術委員会

地域安全学会では研究発表会（秋季）論文に加えて、電子ジャーナル論文の募集を実施しております。2021年度も「地域安全学会論文集 No. 40（電子ジャーナル）」を募集することになりました。本電子ジャーナル査読論文については、2021年8月13日（金）正午12:00までの期間内に、地域安全学会のWebサイト(<http://issj.jp.net/>)から、論文申込と査読用論文原稿を同時に投稿して下さい。

査読は、カラー原稿を前提として行います。なお、再録、印刷される冊子体論文集はすべて白黒印刷とします。また、論文別刷りの作成・送付は行わないこととしておりますので、ご了承下さい。

2020年の第47回研究発表会（秋季）査読論文（地域安全学会論文集 No. 37）より、査読用論文原稿には氏名、所属および謝辞を記載することとなりました。投稿に当たっては、ホームページ上の[テンプレート](#)を必ずご使用下さい。

会員各位の積極的な電子ジャーナル査読論文の投稿をお願いします。

#### 1. 日程等

- (1) 論文申込と査読用論文原稿の投稿期間(オンライン論文投稿・査読システム)  
2021年7月12日（月）～2021年8月13日（金）正午12時（時間厳守）  
※本学会のオンライン論文投稿・査読システムでは、1度投稿すると修正できません。十分に確認の上で投稿ください。  
※また1投稿あたり1件の査読料が必要です。同じ論文を複数回投稿することがないようにご注意ください。
- (2) 第一次査読結果の通知  
2021年11月上旬
- (3) 修正原稿の提出期限(オンライン論文投稿・査読システム)  
2021年12月24日（金）正午12:00（時間厳守）
- (4) 第二次査読結果の通知  
2021年1月中旬
- (5) 再修正原稿の提出期限(オンライン論文投稿・査読システム)  
2022年2月18日（金）正午12:00（時間厳守）
- (6) 「地域安全学会論文集 No. 38」への登載可否の通知  
2022年3月4日（金）頃
- (7) 登載決定後の最終原稿の提出期限(オンライン論文投稿・査読システム)  
①PDF ファイル と Word ファイル のオンライン上での提出  
2022年3月18日（金）正午12:00（時間厳守）  
②白黒原稿の郵送  
2022年3月18日（金）（消印有効）
- (8) 「地域安全学会論文集 No. 40」をホームページ上で電子ジャーナル論文として発行  
2022年3月25日（金）
- (9) 「地域安全学会論文集 No. 40」を再録、印刷（予定）  
2022年11月初旬～中旬 ※令和4年度地域安全学会研究発表会時。

#### 2. 査読料の納入

- (1) 査読料 1万円／編
- (2) 査読料の納入方法
  - ①期 限：2021年8月18日（水）までに、②宛てに振り込んで下さい。
  - ②振込先：りそな銀行 市ヶ谷支店  
口座名：一般社団法人地域安全学会 査読論文口座  
口座種別：普通口座  
口座番号：1745807  
振込者名：受付番号＋筆頭著者（例：2021-000 チイキタロウ）
  - ③その他：査読料の入金確認をもって論文申込手続きの完了とさせていただきます。

### 3. 登載料の納入

- (1) 登載料 (CD-ROM 版論文集 1 枚 + 冊子体論文集 1 冊を含む)  
6 ページは 2 万円 / 編, 10 頁を限度とする偶数頁の増頁については, 5 千円 / 2 頁。
- (2) 登載料の納入方法  
2022 年 3 月 24 日 (木) までに, 上記 2. (2)-② の振込先に振込んで下さい。

### 4. その他の注意事項

- (1) 執筆要領テンプレートの入手方法  
「論文集の執筆要領」は, 電子ファイル「論文集の執筆要領と和文原稿作成例」(テンプレート) が, 地域安全学会ホームページ (<http://iss.jp.net/>) にありますので, 必ず最新のテンプレートをご利用下さい。 なお, 2020 年の第 47 回研究発表会 (秋季) 査読論文 (地域安全学会論文集 No. 37) より, 査読用論文原稿には氏名, 所属および謝辞を記載することとなりましたので, ご注意ください。詳細につきましては執筆要領をご参照下さい。
- (2) 申込だけで原稿が未提出のもの, 査読料の払い込みのないもの, 投稿論文が執筆要領に準じていないもの, および期限後の電子投稿は原則として受理できません。
- (3) 「冊子体論文集」は, 最終原稿ファイル (PDF 形式) の白黒出力を掲載します。原稿がカラー版の場合でも白黒印刷となります。しかし, 「冊子体論文集」に添付される「CD-ROM 版論文集」には, カラー図版に関する制限はありません。

#### 会員の皆様へ 論文査読のご協力お願い

「地域安全学会論文集」への投稿論文につきましては, 学術委員会にて論文 1 編あたり 2 名の査読者を, 原則として会員内より選出し, 査読依頼を e-mail で送信いたします。なお, 平成 30 年の第 43 回 (2018 年度) 研究発表会 (秋季) 査読論文から, 「オンライン論文投稿・査読システム」を使用して, 査読業務 (論文ダウンロードから査読結果の入力まで) を行っておりますので, ご留意下さい。

地域安全学会の会員各位におかれましては, 学術委員会より査読依頼が届きましたら, ご多用中のことと存じますが, ご協力の程, よろしくお願い申し上げます。

# 地域安全学会 2021年度総会 議事次第

1. 日 時：2021年6月19日（土）11時～
2. 場 所：東京都千代田区六番町13番地7号（施設名 一社）地域安全学会 事務局（ ）
3. 議 題

## （1）総会

議長選出

議事録署名人選出

- 1) 2020年度事業報告…………… 報告
- 2) 2020年度決算…………… 報告
- 3) 会員の除名についての決議…………… 審議
- 4) 2021年度役員について…………… 審議
- 5) 2021年度事業計画…………… 審議
- 6) 2021年度予算…………… 審議

（定款による）

正会員数 524名（1/10以上で成立）

※議事3）については、議決権を有する正会員の2分の1が出席（委任状も含む）し、議決権の3分の2以上で成立

出席	2名
委任状	372名
合計	374名

## 1. 2020年度事業報告

### (1) 理事会の開催

2020年度は理事会を下記のとおり開催した。

臨時理事会：2020年5月23日（土） オンライン

第1回 2020年6月20日（土） オンライン

第2回 2020年7月11日（土） オンライン

第3回 2020年8月29日（土） オンライン

第4回 2020年10月31日（土） オンライン

第5回 2021年1月9日（土） オンライン

第6回 2021年3月20日（土） オンライン

### (2) 春季研究発表会は新型コロナ感染症対策のため中止した。

一般論文発表：47編

### (3) 春季研究発表会の中止を受け、オンライン研究報告会を試行した。

2020年5月23日（土） オンライン

報告数：24件

参加者：80人

### (4) 総会の開催

2020年6月20日（土）

場所：一社）地域安全学会 事務局（東京都千代田区六番町13-7）

### (5) 東日本大震災連続ワークショップ2020 オンライン研究報告会の開催

2020年7月3日（金） オンライン

口頭発表：9編/18編（投稿論文数）

### (6) 秋季研究発表会の開催

期間：2020年10月30日（金）～11月1日（日）

場所：オンライン

査読論文発表：44件、一般論文発表：20件

### (7) 地域安全学会論文集・梗概集の刊行

① 春季研究発表会において「地域安全学会梗概集No. 46」を刊行した。

② 秋季研究発表会において「地域安全学会論文集No. 36（電子ジャーナル論文）、No. 37（研究発表会論文）」を刊行した。

③ 秋季研究発表会において「地域安全学会梗概集No. 47」をホームページ上に公開した。

④ 地域安全学会論文集No. 38（電子ジャーナル論文）をホームページ上に公開した。

### (8) 一般研究論文等のホームページ公開

地域安全学会として学術的な知をより広く社会に還元することを目的として、これまでに発行してきた地域安全学会梗概集と東日本大震災特別論文集のHP上での公開を更新した。

### (9) 地域安全学会論文賞・論文奨励賞・年間優秀論文賞の選出

①査読論文（電子ジャーナル）No. 36(2020. 3)、および査読論文（研究発表会）No. 37(2020. 11)に掲載された合計54編の論文を対象として、2020年地域安全学会論文賞の審査を行った。審査会における審議の結果、該当者なしとなった。

②査読論文（研究発表会）No. 37(2020. 11)に掲載され、かつ受賞対象となった合計26編の論文を対象として、2020年論文奨励賞の審査を行い、以下の4編の論文の筆頭著者を選出

した。

- (a) 「高知県における木造住宅の耐震改修推進に向けた関係者間連携促進策に関する調査」  
河内 遥 (名古屋工業大学)
  - (b) 「思考変化と移動経路を組み合わせた津波避難行動過程の分析：東日本大震災発生時の気仙沼市階上地区の事例」  
新家 杏奈 (東北大学)
  - (c) 「災害マネジメント総括支援員等が執る災害対応プロセスの分析」  
藤原 宏之 (人と防災未来センター)
  - (d) 「大規模河川氾濫による浸水想定区域からの脱出を一義的目標とした避難計画の効果に関する基礎的研究」  
蒲倉 光 (筑波大学)
- ③上記54編の査読論文を対象に年間優秀論文賞の審査を行い、以下の2編の論文の筆頭著者を選出した。
- ・「福島原子力発電所事故後の双葉郡住民の精神的健康状態の社会的要因－2017年第2回双葉郡住民実態調査の分析－」 (地域安全学会論文集No. 37)  
佐藤 慶一 (専修大学)
  - ・「犯罪多発地点の集中パトロールにおける犯罪抑止効果の評価実験」 (地域安全学会論文集No. 37)  
野 貴泰 (警察庁)

(10) 地域安全学会「技術賞」の選出

14回目を迎えた地域安全学会技術賞の募集に対し応募が無く、2020年度は該当者なしとなった。

(11) 地域安全学会「優秀発表賞」の選出

2020年度地域安全学会春季オンライン研究報告会において、10編の審査応募登録が行われ、また、第47回(2020年度)地域安全学会研究発表会(秋季)においては、20編のオンライン口頭発表が行われた。審査の結果、以下の発表を行った3名を授賞対象者として選出した。

【春季】

- (a) 「非負値行列因子分解を用いた南海トラフ巨大地震の浸水深分布の空間分布特性の要因分析」  
高橋幸宏氏 (岐阜大学大学院工学研究科)
- (b) 「鳥取県内中小企業に対する11年間のBCP普及の取り組みと課題」  
中谷典正氏 (セコム山陰株式会社)

【秋季】

- (a) 「GISを用いた神戸の水害史と災害地名の関連性の分析」  
折橋祐希氏 (兵庫県立大学大学院減災復興政策研究科)

(12) ニュースレター発行とホームページ管理

2020年度はニュースレターNo. 111-No. 114の計4号を発行し、学会ホームページ上に掲載した。

(13) 会員メーリングリストによる情報提供

会員への迅速な情報発信を目指して、メールによる情報配信を行った。個人情報保護を考慮しつつ、効率的な会員サービスと会員管理を進めた。

(14) 企画研究小委員会研究活動

企画研究小委員会において以下の3テーマについて研究活動を実施した。

- ①地域防災促進のためのICTの活用に関する研究小委員会（主査：小山真紀 岐阜大学）
- ②復興国際比較研究小委員会（主査：大西一嘉 神戸大学）
- ③社会に役立つ防災情報システム研究小委員会（第3期）（主査：牧紀男 京都大学）

(15) 東日本大震災関連活動

- ①「東日本大震災連続ワークショップ2020 オンライン研究報告会」を開催した。
- ②東日本大震災特別委員会ワークショップにおいて「地域安全学会東日本大震災特別論文集No.9」を刊行した。

(16) 国際学術交流

- ・韓国災難情報学会と今後の連携について協議した。
- ・在韓国日本大使館主催の日韓社会・文化セミナー(2021年2月26日オンライン)において西川智(名古屋大学)が基調講演を行ない、金泰煥(龍仁大学・韓国災難情報学会首席副会長)と対談を行なった。

(17) 地域安全学 夏の学校2020

新型コロナウイルス感染拡大のため、2020年度の開催は見送った。

(18) シンポジウム等の共催・参加

以下の催事に、地域安全学会として共催した。

- ・第7回「震災対策技術展」大阪（2020年10月14日～15日）
- ・安全工学シンポジウム2020（日本学術会議）（2020年7月1日～2日）
- ・第25回「震災対策技術展」横浜（2021年3月17日～18日）

(19) 防災学術連携体が主催・連携するシンポジウムに、下記の会員が参加し報告を行った。

- ①日本学術会議主催学術フォーラム・第11回防災学術連携シンポジウム「東日本大震災からの十年とこれから -58学会、防災学術連携体の活動-」（2021年1月14日）  
村尾修（東北大学）「地域安全学会における東日本大震災への取り組みと今後の展望」

(20) 会員数および年会費納入（2021年3月末）

	会員数	2020年度 会費納入状況
賛助会員	2	2
正会員	524	484
学生会員	66	46

## 2. 2020年度決算

決算に関して、宮野監事、重川監事による監査を受けた。指摘された修正を取り入れた以下の決算報告に対して承認をいただいた。

一般社団法人 地域安全学会  
2021年3月31日現在

### 【貸借対照表】

(単位：円)

資産の部		負債及び正味財産の部	
科目	金額	科目	金額
現金	7,066	未払金	225,800
		預り金	7,656
		前受金	51,000
普通預金	4,686,541	仮受金	0
(うち、国際交流事業用資金)	517,976	未払法人税等	70,000
【口座別内訳】 ゆうちょ銀行	1,018,248		
振替預金	197,976		
春季研究発表	302,743		
秋季研究発表	418,725		
りそな査読論文	2,281,466		
りそなワークショップ	411,814		
りそなりスコミ事業	55,569		
前払費用	0		
商品	2,852,465		
未収会費	504,000		
未収入金	0		
ソフトウェア	0		
		負債合計	354,456
		その他一般正味財産	7,695,616
		正味財産合計	7,695,616
資産合計	8,050,072	負債・正味財産合計	8,050,072

## 【損益計算書】

(単位：円)

科 目	金 額
<b>【Ⅰ 収入】</b>	
1 会費収入	4,210,000
2 寄付金収入	0
3 受取助成金	0
4 事業収入	
ア 梗概集登載料	762,500
イ 梗概集販売料	27,940
ウ 論文集登載料	1,875,000
エ 論文集査読料	880,000
オ 論文集販売料	25,890
カ DVD販売料	20,370
5 雑収入	
ア 懇親会費	0
イ 視察費	0
ウ その他	240,560
6 受取利息	26
<b>収入合計</b>	<b>8,042,286</b>
<b>【Ⅱ 支出】</b>	
1 人件費	143,640
2 通信・広報費	168,476
3 印刷・編集費	1,330,795
(印刷編集費棚卸対応分)	-101,582
4 会議費	18,632
5 旅費交通費	71,420
6 交際費	0
7 委託費	949,649
8 消耗品費	107,205
9 事務用品費	0
10 減価償却費	0
11 支払手数料	11,880
12 謝金	0
13 補助金	40,000
14 事務局費	1,728,000
15 租税公課	0
16 運営費	359,440
17 雑費等	18,000
<b>支出合計</b>	<b>4,845,555</b>
<b>税引前当期利益</b>	<b>3,196,731</b>
法人税等	70,000
<b>当期利益</b>	<b>3,126,731</b>
前期繰越利益金額	4,568,885
次期繰越利益金額	7,695,616

## 2020年度地域安全学会収支計算書

(2020年4月1日～2021年3月31日)

### 収入の部

(単位：円)

科 目	①予算	②決算	比較 ①-②	備 考
1.会費収入	4,165,000	4,335,000	▲ 170,000	正会員:7,000円×549名 学生会員:2,000円×76名 賛助会員100,000円×2社 過年度の未収入分のうち当期入金分：140,000 (予算 正:545 学生:75 賛助:2)
2.寄付金収入	0	0	0	
3.受取助成金等	0	0	0	
小 計	4,165,000	4,335,000	▲ 170,000	
4.春季研究発表会				
1)事業収益				
ア 梗概集登載料	470,000	367,500	102,500	登載料 10,000×30名、5,000×13名、2,500×1名
イ 梗概集販売料	10,000	1,120	8,880	CD：1,000円×1枚+送料
2)雑収入				
ア 懇親会費	0	0	0	中止のため（オンライン開催）
イ 視察費	0	0	0	中止のため（オンライン開催）
小 計	480,000	368,620	111,380	
5.秋季研究発表会				
1)事業収益				
ア 梗概集登載料	400,000	200,000	200,000	登載料（ペーｼﾞ数対応5,000円/2ペーｼﾞ）×20名
イ 梗概集販売料	180,000	1,120	178,880	CD-R：1,000円×1枚+送料
2)雑収入				
ア 懇親会費	435,000	0	435,000	中止のため（オンライン開催）
イ 視察費	0	0	0	中止のため（オンライン開催）
小 計	1,015,000	201,120	813,880	
6.東日本大震災連続ワークショップ				
1)事業収益				
ア 論文集登載料	200,000	195,000	5,000	登載料 10,000円×12名、15,000×5名
イ 論文集販売料	20,000	25,700	▲ 5,700	1冊：2,000円×11部+送料
2)雑収入				
ア 懇親会費	0	0	0	中止のため（オンライン開催）
イ 視察費	0	0	0	中止のため（オンライン開催）
小 計	220,000	220,700	▲ 700	
7.学術				
1)事業収益				
ウ 論文集登載料	1,250,000	1,875,000	▲ 625,000	登載料（2万円+5,000円/2ページ）×62名
エ 論文集査読料	700,000	880,000	▲ 180,000	査読料：1編10,000円×88名
オ 論文集販売料	200,000	25,890	174,110	1冊：4,000円×6部+送料
カ DVD販売料	20,000	20,370	▲ 370	1枚：2万円（会員価格）×1枚
2)雑収入				
ア その他	125,000	230,000	▲ 105,000	オンライン投稿査読システム利用料 5,000円×46編 日本災害情報学会 日本災害復興学会より
小 計	2,295,000	3,031,260	▲ 736,260	
8.受取利息	50	26	24	
9.その他	0	10,560	▲ 10,560	
収入合計	8,175,050	8,167,286	7,764	

支出の部

(単位：円)

科目	①予算	②決算	比較 ①-②	備 考
1.事務局・総務				
2) 通信費・広報費	100,000	73,361	26,639	切手、送料、電話代等
3) 印刷編集費	15,000	1,500	13,500	コピー代、封筒印刷代
5) 旅費交通費	60,000	0	60,000	監査の為の交通費、大会等事務局交通費、宿泊費※コロナ禍でオンライン開催のため利用なし
6) 交際費	5,000	0	5,000	
7) 委託費	382,800	382,800	0	会計事務所月25,000円＋税 2年4月-3年3月、メールアドレス運用代
8) 消耗品費	18,000	983	17,017	消耗品、10万円以下の備品
9) 事務用品費	5,000	0	5,000	事務用文具等
11) 支払手数料	50,000	3,300	46,700	銀行振込手数料
12) 謝金	0	0	0	
14) 事務局費	1,728,000	1,728,000	0	委託費月144,000円×12 2年4月～3年3月
15) 租税公課	20,000	0	20,000	源泉所得税、利子税、登録免許税、収入印紙代等
16) 運営費	320,000	299,590	20,410	メダル作成費20個+氏名等刻印費
17) 雑費等	0	0	0	
99) 予備費	76,000	93,200	▲ 17,200	前期R2.3月期の収益事業の利益に係る法人税等
小 計	2,779,800	2,582,734	197,066	
2.広報				
7) 委託費	30,000	24,200	5,800	サーバ利用料
11) 支払手数料	1,000	220	780	銀行振込手数料
小 計	31,000	24,420	6,580	
3.総会・理事会				
1) 人件費				
ア アルバイト給料	0	0	0	
2) 通信費・広報費	30,000	0	30,000	総会の案内資料送付切手代※コロナ禍のためメール送信したため利用なし
3) 印刷編集費	30,000	0	30,000	案内送付用封筒・ハガキ・案内資料印刷※コロナ禍のためメール送信したため利用なし
4) 会議費	100,000	0	100,000	理事会 会場費※オンライン開催のため利用なし
5) 旅費交通費	650,000	71,420	578,580	理事会 旅費交通費※オンライン開催のため利用なし
11) 支払手数料	5,000	1,320	3,680	銀行振込手数料
12) 謝金	0	0	0	
小 計	815,000	72,740	742,260	
4.学術				
1) 人件費 (アルバイト給料)				
ア アルバイト給料	200,000	70,500	129,500	論文データ等アップデート作業代
2) 通信費・広報費	30,000	83,456	▲ 53,456	論文発送料
3) 印刷編集費	750,000	1,097,910	▲ 347,910	論文集No.36, 37 印刷料、コピー代
4) 会議費	50,000	18,632	31,368	学術委員会昼食代、飲食代
5) 旅費交通費	400,000	0	400,000	学術委員会参加交通費※オンライン開催のため利用なし
7) 委託費	535,180	542,649	▲ 7,469	研究発表会論文オンライン査読システム委託費 年間利用料：535,180
11) 支払手数料	10,000	4,840	5,160	銀行振込手数料
16) 運営費	50,000	0	50,000	査読者昼食代
小 計	2,025,180	1,817,987	207,193	
5.国際交流				
11) 支払手数料	10,000	0	10,000	
13) 補助等	0	0	0	
16) 運営費	100,000	0	100,000	
小 計	110,000	0	110,000	

科目	①予算	②決算	比較 ①-②	備 考
6.春季研究発表会				
1) 人件費 (アルバイト給料)				
アルバイト給料	0	0	0	
2) 通信費・広報費	10,000	0	10,000	
3) 印刷編集費	85,000	84,150	850	梗概集No.46 PDF+CD20部
4) 会議費	0	0	0	
5) 旅費交通費	0	0	0	中止のため (オンライン開催)
6) 交際費	0	0	0	
8) 消耗品費	3,000	3,729	▲ 729	賞状用紙他
11) 支払手数料	3,000	220	2,780	銀行振込手数料
12) 謝金	0	0	0	中止のため (オンライン開催)
16) 運営費	33,000	33,000	0	ポスター・チラシデザイン代
小 計	134,000	121,099	12,901	
7.秋季研究発表会				
1) 人件費 (アルバイト給料)				
アルバイト給料	40,000	73,140	▲ 33,140	
2) 通信費・広報費	5,000	880	4,120	梗概集送料、賞状送付料
3) 印刷編集費	240,000	44,825	195,175	梗概集No.47
4) 会議費	0	0	0	
5) 旅費交通費	5,000	0	5,000	アルバイト交通費
6) 交際費	380,000	0	380,000	懇親会会場代、料理代※オンライン開催のため利用なし
8) 消耗品費	3,000	2,750	250	賞状、賞状用筒、備品
9) 事務用品費	0	0	0	
11) 支払手数料	1,000	660	340	
12) 謝金	30,000	0	30,000	パフォーマー謝金※オンライン開催のため利用なし
16) 運営費	230,000	26,850	203,150	昼食、飲み物代、パネル設置代
小 計	934,000	149,105	784,895	
8.東日本大震災連続ワークショップ				
2) 通信費・広報費	5,000	10,779	▲ 5,779	
3) 印刷編集費	120,000	102,410	17,590	特別論文集No.9(CD付)
5) 旅費交通費	0	0	0	中止のため (オンライン開催)
6) 交際費	0	0	0	中止のため (オンライン開催)
11) 支払手数料	1,000	440	560	銀行振込手数料
12) 謝金	0	0	0	中止のため (オンライン開催)
16) 運営費	0	0	0	中止のため (オンライン開催)
小 計	126,000	113,629	12,371	
10.その他事業				
5) 旅費交通費	200,000	0	200,000	研究小委員会 (2つ)、防災学術連携体の旅費交通費
8) 消耗品費	100,000	99,743	257	研究小委員会 ヘッドセット等
11) 支払手数料	1,000	880	120	銀行振込手数料
13) 補助等	40,000	40,000	0	安全工学シンポジウム共催分担金、防災学術連携体会費
16) 運営費	100,000	0	100,000	安全・安心若手研究会の運営費：100,000円 (交通費も含む) ※コロナ禍で中止のため利用なし
小 計	441,000	140,623	300,377	
支出合計	7,395,980	5,022,337	2,373,643	

収入-支出	3,144,949
-------	-----------

なお、科目間の流用を認めます。

## 監査報告書

一般社団法人地域安全学会  
会長 村尾 修 殿

令和3年5月7日

監事 重川 希志依



監事 宮野 道雄



私たちは、令和2年4月1日から令和3年3月31日までの令和2年度における会計及び業務の監査を行い、次のとおり報告する。

### 1. 監査方法

- 1) 会計監査について、帳簿並びに関係書類の閲覧などの必要な監査手続きを実施するとともに、理事から報告を受け、計算書類の正確性を検討した。
- 2) 業務監査について、理事会及びその他の会議に出席し、理事からの業務の報告を聴取し、関係書類の閲覧などの必要な監査手続きを実施することによる業務執行の妥当性を検討した。

### 2. 監査結果

- 1) 財務諸表等及びその附属明細書は、法人の収支状況及び財産状態を正しく示していると認める。
- 2) 業務（事業）報告の内容は適正であると認める。
- 3) 理事の職務の執行に関する不正行為又は法令もしくは定款に違反する重大な事実はないと認める。

以上

### 3. 会員の除名について

地域安全学会定款第10条により、過去3年度分（2018（H30）年度、2019（H31）年度、2020（R02）年度）または過去2年度分（2019（H31）年度、2020（R02）年度）の会費を滞納している正会員（15名）及び学生会員（14名）の除名について審議を行う。

<p>(退 会)</p> <p>第 10 条 正会員、学生会員、名誉会員又は賛助会員は、次に掲げるいずれかの事由によって退会する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.各会員本人の申し出。ただし、退会の申し出は、当法人所定の退会届により 1 か月前にするものとするが、やむを得ない事由があるときは、いつでも退会することができる。</li> <li>2.死亡又は解散</li> <li>3.総会員の同意</li> <li>4.除名</li> </ol> <p>②正会員、学生会員、名誉会員又は賛助会員の除名は、次に掲げるいずれかの事由により、総会の決議によってすることができる。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.会費を2年以上滞納したとき</li> <li>2.当法人の名誉を傷つけ又は当法人の目的に反する行為があったとき</li> <li>3.その他正当な事由があるとき</li> </ol>
--

除名の対象となる正会員及び学生会員を下記に示す。

#### ■ 正会員(15名)

会員番号	氏名
3年分未納	3名
1538	若林 拓
1876	山田 圭二郎
1902	上田 祐司
2年分未納	12名
1131	境 茂樹
1290	水田 哲生
1330	山本 栄
1442	西道 実
1449	飯塚 裕介
1797	我謝 賢
1807	高山 聡宏
1825	高橋 拓宙
1885	柏田 すみれ
1941	波多野 頼子
1964	熊野 稔
1984	橋田 和明

#### ■ 学生会員(14名)

会員番号	氏名
3年分未納	8名
1713	湊 文博
1842	高橋 花野子
1915	片山 潤一
1916	高木 将人
1917	山田 桂吾
1921	小佐野 昂生
1922	外館 貴雅
1930	三村 正史
2年分未納	6名
1767	野村 忠司
1859	薛 欣怡
1913	小原 雅人
1928	WU XIAODONG
1940	中林 秀光
1955	金井 れもん

## 4. 2021年度役員の改選結果

### 1) 理事

生田 英輔	大阪市立大学大学院生活科学研究科
池田 浩敬	常葉大学大学院環境防災研究科
市古 太郎	首都大学東京大学院都市環境科学研究科
稲垣 景子	横浜国立大学大学院都市イノベーション研究院
梅本 通孝	筑波大学システム情報系
大西 一嘉	神戸大学大学院工学研究科
大原 美保	土木研究所水災害・リスクマネジメント国際センター
加藤 孝明	東京大学生産技術研究所
柄谷 友香	名城大学都市情報学部
越村 俊一	東北大学災害科学国際研究所
越山 健治	関西大学社会安全学部
小山 真紀	岐阜大学流域圏科学研究センター
指田 朝久	東京海上日動リスクコンサルティング
佐藤 翔輔	東北大学災害科学国際研究所
庄司 学	筑波大学システム情報系
立木 茂雄	同志社大学社会学部
田中 聡	常葉大学大学院環境防災研究科
西川 智	名古屋大学減災連携研究センター
能島 暢呂	岐阜大学工学部
秦 康範	山梨大学工学部
藤本 一雄	千葉科学大学危機管理学部
牧 紀男	京都大学防災研究所
松岡 昌志	東京工業大学環境・社会理工学院
丸山 喜久	千葉大学大学院工学研究院
村尾 修	東北大学災害科学国際研究所
目黒 公郎	東京大学生産技術研究所
森 伸一郎	愛媛大学大学院理工学研究科
八木 宏晃	三島市計画まちづくり部

### 2) 監事

糸井川 栄一	筑波大学システム情報系
重川 希志依	常葉大学大学院環境防災研究科
宮野 道雄	大阪市立大学大学運営本部

以上、理事28名、監事3名

## 2021年度地域安全学会委員会等の構成（案）

（◎委員長、○副委員長、\_\_\_理事、理事は所属を省略）

### 【会長】

村尾修

### 【副会長】

田中聡：学術（研究・国際交流）担当

能島暢呂：総務（会員・広報）担当

### 【総会・春季研究発表会実行委員会】

◎梅本通孝、○市古太郎、越村俊一、小山真紀、小野祐輔（鳥取大学）、浅井秀子（鳥取大学）、中谷典正（セコム山陰）

### 【秋季研究発表会実行委員会】

◎池田浩敬、○八木宏晃

### 【学術委員会】

◎越山健治、○丸山喜久、池内淳子（摂南大学）、宇田川真之（防災科学技術研究所）、稲垣景子、木村玲欧（兵庫県立大学）、越村俊一、小林秀行（明治大学）、佐藤翔輔、竹谷修一（国土技術政策総合研究所）、中林啓修（国土舘大学）、三浦弘之（広島大学）、村上正浩（工学院大学）、望月智也（ERS）

### 【研究運営委員会】

◎大原美保、○梅本通孝

### 【広報委員会】

◎藤本一雄、○秦康範、庄司学、松岡昌志（HP担当）、能島暢呂、小山真紀

### 【表彰委員会】

◎池田浩敬、稲垣景子、柄谷友香

### 【選挙管理委員会】

◎指田朝久、○藤本一雄

### 【国際交流委員会】

◎西川智、森伸一郎、立木茂雄、牧紀男、目黒公郎

### 【東日本大震災特別委員会】

◎村尾修、○生田英輔、稲垣景子、大西一嘉、佐藤翔輔、杉安和也（岩手県立大学）、寅屋敷哲也（人と防災未来センター）、松川杏寧（防災科学技術研究所）

### 【実務者企画委員会】

◎小山真紀、○秦康範、○南沢修、阪本真由美（兵庫県立大学）、古橋勝也（京都府）、八木宏晃、小松剛（伊那市）、斉藤健郎、岩垣津信太朗（岐阜県）

### 【安全工学シンポジウム担当】

◎加藤孝明

【防災学協会連合組織担当】

◎田中聡、○西川智

## 5. 2021年度事業計画

### (1) 理事会の開催

2021年度は理事会を下記のとおり開催する。

- 第1回 2021年6月19日（土） オンライン
- 第2回 2021年7月10日（土） オンライン
- 第3回 2021年9月4日（土） オンライン
- 第4回 2021年10月29日（金） 静岡（静岡地震防災センター）
- 第5回 2022年1月8日（土） オンライン
- 第6回 2022年3月19日（土） 東京（同志社大学東京オフィス）

### (2) 総会の開催

総会を下記のとおり開催する。

- 日時：2021年6月19日（土） 11:00-
- 場所：一社）地域安全学会 事務局（東京都千代田区六番町13-7）

### (3) 春季研究発表会・公開シンポジウムの開催

春季研究発表会・公開シンポジウムを下記のとおり開催する。

- 日時：2021年5月21日（金）～22日（土）
- 場所：オンライン

### (4) 東日本大震災連続ワークショップ2021 in 名取 の開催

- 日時：2021年8月26日（木）～27日（金）
- 場所：名取市閑上公民館（宮城県名取市閑上1-12-77-1E32街区1）
- ・市の関係者による復興状況の講演、被災者による講演、研究発表会
- ・現地見学会

### (5) 秋季研究発表会の開催

秋季研究発表会を下記のとおり開催する

- 日時：2021年10月30日（土）～10月31日（日）（オンライン開催の場合は29～31）
- 場所：静岡地震防災センター

### (6) 地域安全学会論文集・梗概集の刊行

- ① 春季研究発表会において「地域安全学会梗概集 No. 48」、秋季研究発表会において「地域安全学会梗概集 No. 49」を刊行し、優秀発表賞を選出する。
- ② 地域安全学会論文集の論文募集は年2回とし、今年度は地域安全学会論文集 No. 39、同 No. 40（電子ジャーナル論文）の論文を募集する。
- ③ 秋季研究発表会において「地域安全学会論文集 No. 38、No. 39」を刊行し、地域安全学会論文奨励賞を選出する。
- ④ 地域安全学会論文集 No. 40（電子ジャーナル論文）をホームページ上で公開する。
- ⑤ 地域安全学会論文集（No. 38、No. 39）を対象に地域安全学会論文賞および年間優秀論文賞を選出する。

### (7) 広報活動の強化と会員管理

サービスの向上を目指して、会員へのメールによる各種情報配信、ホームページによる情報提供、印刷物による情報発信について、各々の機能分化した情報提供を実施する。

(8) 地域安全学会技術賞の選出

表彰委員会において第15回地域安全学会技術賞の選考を行う。

(9) 企画研究小委員会活動

企画研究小委員会において以下の3テーマについて研究活動を実施する。

①地域防災促進のためのICTの活用に関する研究小委員会（主査：小山真紀 岐阜大学）

②復興国際比較研究小委員会（主査：大西一嘉 神戸大学）

③社会に役立つ防災情報システム研究小委員会（第3期）（主査：牧紀男 京都大学）

(10) 国際学術交流

・今後開催予定の第5回世界防災会議（ICUDR）について準備を進める。

・韓国災難情報学会と学術連携協定を締結する。

(11) 東日本大震災に関する支援・研究活動の推進

東日本大震災特別委員会による被災地支援・研究活動の実施、東日本大震災学協会連絡協議会への参画を行う。

(12) 防災学協会連合組織への参加

「防災学協会連携体」が主催、連携するシンポジウム等に参加し報告を行う。

(13) 地域安全学 夏の学校2021－基礎から学ぶ防災・減災－の実施

大学生・大学院生を主な対象として、セミナーを開催する。

日時：2021年夏

場所：オンライン

## 6. 2021年度予算

### 2021年度地域安全学会予算

(2021年4月1日～2022年3月31日)

収入の部

(単位：円)

科 目	2021年予算	2020年決算	備 考
1.会費収入	4,200,000	4,335,000	正会員:7,000円×550名 学生会員:2,000円×75名 賛助会員100,000円×2社
2.寄付金収入	0	0	
3.受取助成金等	0	0	リスコミュニケーション事業2018年度で終了
小 計	4,200,000	4,335,000	
4.春季研究発表会			
1)事業収益			
ア 梗概集登載料	370,000	367,500	登載料 10,000×30名、5,000×14名
イ 梗概集販売料	1,000	1,120	CD-R：1,000円×1枚
2)雑収入			
ア 懇親会費	0	0	中止のため（オンライン開催）
イ 視察費	0	0	中止のため（オンライン開催）
小 計	371,000	368,620	
5.秋季研究発表会			
1)事業収益			
ア 梗概集登載料	200,000	200,000	登載料（ページ数対応5,000円/2ページ）×20名
イ 梗概集販売料	1,000	1,120	CD-R：1,000円×1枚
2)雑収入			
ア 懇親会費	435,000	0	懇親会参加費：7,500円×50名、2,500円×24名
イ 視察費	0	0	
ウ その他	0	0	
小 計	636,000	201,120	
6.東日本大震災連続ワークショップ			
1)事業収益			
ア 論文集登載料	190,000	195,000	登載料 10,000円×12名、15,000×5名
イ 論文集販売料	20,000	25,700	1冊：2,000円×10部
2)雑収入			
ア 懇親会費	75,000	0	懇親会参加費：3,000円×25名
イ 視察費	80,000	0	見学会参加費：4,000円×20名
ウ その他	0	0	
小 計	365,000	220,700	
7.学術			
1)事業収益			
ウ 論文集登載料	1,875,000	1,875,000	登載料（2万円+5,000円/2ページ）×62名
エ 論文集査読料	880,000	880,000	査読料：1編10,000円×88名
オ 論文集販売料	24,000	25,890	1冊：4,000円×6部
カ DVD販売料	20,000	20,370	1枚：2万円（会員価格）×1枚
2)雑収入			
ア その他	230,000	230,000	オンライン投稿査読システム利用料 5,000円×26編 日本災害情報学会 日本災害復興学会より
小 計	3,029,000	3,031,260	
8.受取利息	30	26	
9.その他	0	10,560	
収入合計	8,601,030	8,167,286	

支出の部

(単位：円)

科目	①予算	②決算	備 考
1.事務局・総務			
2) 通信費・広報費	150,000	73,361	切手、送料、電話代等
3) 印刷編集費	15,000	1,500	コピー代、封筒印刷代
5) 旅費交通費	60,000	0	大会等事務局交通費、宿泊費
6) 交際費	5,000	0	
7) 委託費	382,800	382,800	会計事務所月25,000円＋税 3年4月～4年3月、メールアドレス運用代
8) 消耗品費	18,000	983	消耗品、10万円以下の備品
9) 事務用品費	5,000	0	事務用文具等
11) 支払手数料	50,000	3,300	銀行振込手数料、役員登記手数料
12) 謝金	0	0	
14) 事務局費	1,728,000	1,728,000	委託費月144,000円×12 3年4月～4年3月
15) 租税公課	20,000	0	源泉所得税、利子税、登録免許税、収入印紙代等
16) 運営費	50,000	299,590	メダル氏名等刻印費
17) 雑費等	0	0	
99) 予備費	70,000	93,200	前期の法人税等
小 計	2,553,800	2,582,734	
2.広報			
7) 委託費	30,000	24,200	サーバ利用料
11) 支払手数料	1,000	220	銀行振込手数料
小 計	31,000	24,420	
3.総会・理事会			
1) 人件費			
ア アルバイト給料	0	0	
2) 通信費・広報費	50,000	0	Dropbox利用料等
3) 印刷編集費	30,000	0	案内送付用封筒・ハガキ・案内資料印刷
4) 会議費	100,000	0	理事会 会場費
5) 旅費交通費	100,000	71,420	理事会 旅費交通費
11) 支払手数料	5,000	1,320	銀行振込手数料
12) 謝金	0	0	
小 計	285,000	72,740	
4.学術			
1) 人件費(アルバイト給料)			
ア アルバイト給料	100,000	70,500	論文データ等アップデート作業代
2) 通信費・広報費	80,000	83,456	論文送送料
3) 印刷編集費	1,000,000	1,097,910	論文集No.38,39 印刷料、コピー代
4) 会議費	30,000	18,632	学術委員会昼食代、飲食代
5) 旅費交通費	0	0	学術委員会参加交通費
7) 委託費	540,000	542,649	研究発表会論文オンライン査読システム委託費 年間基本利用料：532,189
11) 支払手数料	10,000	4,840	銀行振込手数料
16) 運営費	50,000	0	査読者昼食代
小 計	1,810,000	1,817,987	
5.国際交流			
11) 支払手数料	10,000	0	
13) 補助等	0	0	
16) 運営費	100,000	0	
小 計	110,000	0	

科目	①予算	②決算	備 考
6.春季研究発表会			
1) 人件費(アルバイト給料)			
アルバイト給料	10,000	0	
2) 通信費・広報費	10,000	0	郵送料
3) 印刷編集費	90,000	84,150	梗概集No.48 PDF+CD10部
4) 会議費	0	0	
5) 旅費交通費	0	0	中止のため(オンライン開催)
6) 交際費	0	0	
8) 消耗品費	5,000	3,729	賞状用紙他
11) 支払手数料	3,000	220	銀行振込手数料
12) 謝金	0	0	中止のため(オンライン開催)
16) 運営費	30,000	33,000	ポスター・チラシデザイン代
17) 雑費等	0	0	
小 計	148,000	121,099	
7.秋季研究発表会			
1) 人件費(アルバイト給料)			
ア アルバイト給料	80,000	73,140	
2) 通信費・広報費	5,000	880	梗概集送料、賞状送付料
3) 印刷編集費	240,000	44,825	梗概集No.49
4) 会議費	0	0	
5) 旅費交通費	5,000	0	アルバイト交通費
6) 交際費	380,000	0	懇親会会場代、料理代
8) 消耗品費	3,000	2,750	賞状、賞状用筒、備品
9) 事務用品費	0	0	
11) 支払手数料	1,000	660	
12) 謝金	30,000	0	パフォーマー謝金
16) 運営費	230,000	26,850	昼食、飲み物代、パネル設置代
小 計	974,000	149,105	
8.東日本大震災連続7-クソップ			
2) 通信費・広報費	5,000	10,779	
3) 印刷編集費	120,000	102,410	特別論文集No.10(CD付)
5) 旅費交通費	100,000	0	現地見学会等バス代
6) 交際費	75,000	0	懇親会会場代、料理代
11) 支払手数料	1,000	440	銀行振込手数料
12) 謝金	0	0	
16) 運営費	0	0	
小 計	301,000	113,629	
10.その他事業			
5) 旅費交通費	200,000	0	研究小委員会(2つ)、防災学術連携体の旅費交通費
8) 消耗品費	100,000	99,743	研究小委員会(2つ)
11) 支払手数料	1,000	880	銀行振込手数料
13) 補助等	40,000	40,000	安全工学シンポジウム共催分担金、防災学術連携体会費
16) 運営費	100,000	0	安全・安心若手研究会の運営費:100,000円(交通費も含む)
小 計	441,000	140,623	
支出合計	6,653,800	5,022,337	

収入-支出	1,947,230
-------	-----------

なお、科目間の流用を認めます。

## (2) 地域安全学会春季研究発表会における優秀発表賞について

地域安全学会 表彰委員会

地域安全学会では、春季・秋季研究発表会での一般論文の研究発表（口頭発表・ポスター発表）を対象として優秀発表賞を平成24年度に創設し、表彰を行っております。2021年5月21日に、新型コロナウイルス感染症拡大の状況を踏まえオンライン形式で実施された地域安全学会春季研究発表会におきましては、59編の口頭発表が行われました。そのうち事前に応募登録された方を選考対象とすることといたしました。

今回は19編の応募登録があり、下記の審査要領に従って採点を実施しました。採点終了後に優秀発表賞審査会を開催して厳正なる選考を行いました。審議の結果、以下の方を授賞対象者として選出いたしましたことをここに報告いたします。

・北川 夏樹（名古屋大学 減災連携研究センター）

「「一日前プロジェクト」体験談の読了による防災意識の変容に関する一考察」

・久保 俊一郎（東洋大学大学院国際学研究科国際地域学専攻）

「中小企業のBCP策定促進に係る課題の考察～策定率の変化とその理由から～」

・小林 純平（北海道大学大学院工学院建築都市空間デザイン専攻）

「夜間発生地震に対する人体損傷度関数の適合性並びに応用拡張性の検討」

（並びは五十音順）

なお、この選考結果につきましては、学会HPにおいて発表しました。表彰式につきましては、10月の秋季大会にて行う予定です。

今後の研究発表会におきましても、引き続き優秀発表賞の選考を行いますので、奮って投稿・発表していただきますようお願いいたします。

「地域安全学会優秀発表賞」審査要領(平成24年5月26日制定)(平成28年3月26日改定)(令和2年4月17日)

### 1. 授賞対象者

「地域安全学会優秀発表賞」の授賞対象者は、地域安全学会 研究発表会（春季・秋季）もしくはオンライン研究報告会での一般論文の研究発表（口頭発表・ポスター発表・オンライン口頭発表）の発表者であり、原則、研究実施または論文作成において指導を受ける立場にある40歳（当該年度4月1日時点）未満の者とする。ただし、実務者等は研究歴等を考慮し年齢規定を緩和することもある。再受賞は認めない。また、予定された発表者ではない代理発表者及び一般論文登録時に審査を希望しない旨登録した者は対象外とする。

### 2. 審査方法

1) 表彰委員会委員全員、学会長・副会長、学術委員会委員長・副委員長、学術委員会電子ジャーナル部会長・副部会長、春季研究発表会実行委員長、秋季研究発表会実行委員長、および別途指名される採点委

員から構成される優秀発表賞審査会が審査を行う。

2) 採点委員は、研究発表（口頭発表，ポスター発表もしくはオンライン口頭発表）時に，評価シートを用いて各発表者の採点を行う。

3) 優秀発表賞審査会では，すべての採点委員により提出された評価シートに基づいて審議を行い，受賞者を決定する。

4) 審査の実施細目は別途定める。

### 3. 表彰

1) 賞は「地域安全学会優秀発表賞」と称する。

2) 「地域安全学優秀発表賞」の受賞者には，賞状を贈呈する。

3) 受賞者発表および表彰式については実施細目に定める。

以上

## 5. 寄稿

### 基礎自治体指定の緊急輸送道路と地域連携

名古屋大学減災連携研究センター 千葉啓広

#### 1. 緊急輸送道路の指定状況と対象地域の取組み

##### (1) 緊急輸送道路の指定状況

緊急輸送道路は、阪神・淡路大震災での教訓も踏まえて整備が進められてきた「災害直後から、避難・救助をはじめ、物資供給等の応急活動のために緊急車両の通行を確保すべき重要な路線」である。高速道路・自動車専用道路や一般国道、及びこれらを連絡する幹線的な道路を主な対象として、全国に約 10 万 km が指定されている<sup>1)</sup>。緊急輸送道路の指定は主として都道府県や政令市が行い、1次、2次、3次の3つに区分される。但し、愛知県をはじめとして、大阪府や神奈川県などの複数の府県において、基礎自治体が指定する緊急輸送道路をいわゆる第3次緊急輸送道路として位置づけている。

この時の視点は、各市町村内の災害対応や物資輸送などを主として、それぞれの実情に合わせたきめ細かな指定が可能であると考えられる。一方で、とくに広域大規模災害時を想定した場合、広域物資輸送や地域連携に基づく相互応援の視点も重要であるが、その視点が欠けている可能性がある。本稿ではこうした現状の課題を共有するとともに、地域連携に基づく災害時の相互応援の実施を視野に、基礎自治体指定が指定する緊急輸送道路の指定のあり方や、市町村境界を越えた接続に向けた基礎自治体間の議論の場をケーススタディとして地域連携の確立に向けた、議論のあり方や課題について、筆者らが取り組みの支援を行う愛知県西三河地域を対象に検討した結果を報告するものである<sup>2)</sup>。

##### (2) 対象地域の取組み

愛知県西三河地域を構成する9市1町は、災害時の自治体間連携を達成するため、2013年に「西三河災害時相互応援協定」を結ぶとともに、「西三河防災・減災研究会(以下、研究会)」を結成し、特に中部圏で想定されている南海トラフ地震等の大規模広域災害の発災に備え、地域連携による共助の取り組みについて継続的な協議を行っている。研究会では、取組みの一環として各年度1回、大判の住宅地図を用いた情報共有手法も用いながら、ワークショップ形式の議論の場を設けている。市町指定の緊急輸送道路の市町境界を越えた接続については、2016年度のワークショップ<sup>3)</sup>(写真-1)において「緊急輸送道路などの道路被害と復旧の課題」をテーマに議論を行った結果、検討課題として示されたものである。その後、各市町が個別に検討を進めていたが、2019年度の研究会において、緊急輸送道路プロジェクトチーム(道路PT)を立ち上げ、各市町の輸送道路の現状を確認するとともに、市町を越えた3次輸送道路の接続の可能性について検討を進めることとなった。



写真-1 副市長・副町長によるワークショップ

### (3) 愛知県における緊急輸送道路の位置づけ

前節で述べた通り、愛知県における緊急輸送道路の内、県が指定するのは1次・2次のみで、3次輸送道路については、令和2年度の愛知県地域防災計画<sup>4)</sup>の修正で初めて3次輸送道路が「その他の道路」として明示された。ここで示されるその他の道路とは、「愛知県緊急輸送道路ネットワーク計画等策定協議会、又は市町村の防災計画で定めた緊急輸送道路で、第1次、第2次緊急輸送道路以外の道路。」と定められてる。しかし従来から、市町村独自の緊急輸送道路が、各基礎自治体の必要に応じていわゆる3次緊急輸送道路として指定する動きがあり、愛知県が指定する緊急輸送道路を補完する緊急輸送道路を主として各市町村が主体として指定する状況は同様といえる<sup>2)3)</sup>(表-1)。

表-1 結果緊急輸送道路の種別と関係する道路・拠点等

種別	指定において関係する道路や拠点等
第1次緊急輸送道路	県庁所在地、地方中心都市、重要港湾、空港等
第2次緊急輸送道路	第1次緊急輸送道路、市区町村役場、防災拠点(行政機関、公共機関、港湾、災害医療拠点、自衛隊等)
第3次緊急輸送道路	その他の道路 ※愛知県緊急輸送道路ネットワーク計画等策定協議会、又は市町村の防災計画で定める
【参考】くしの齒ルート	津波等により甚大な被害を受けた地域での救援・救護活動を支援するための「道路啓開」を最優先に行う道路(第1次及び第2次緊急輸送道路から選定する)

## 2. 基礎自治体指定の緊急輸送道路の接続に向けた取組み 3次緊急輸送道路接続のケーススタディ

### (1) 道路プロジェクトチーム (PT)

研究会では、協定に基づいた連携の取り組みを進めるべく、それぞれが抱える課題をベースに複数(概ね3つ)のプロジェクトチームをつくり、各年度活動を行っている。道路PTは後述の4市が参画し、2019年度と2020年度の2ヵ年取組みを行っている。活動内容は、西三河地域を構成する9市1町(以下、各市町)の第3次輸送道路の指定状況及び指定方針の情報共有及び、市町間で未接続の3次輸送道路について、災害時の地域連携による相互応援を念頭に市町境界を越えた接続の検討が行われた。

### (2) 3次緊急輸送道路の指定方針

道路PTでは、2019年度の実地調査を行うにあたって各市町が指定する緊急輸送道路の指定方針(指定により結ぶ拠点等)の調査を行った(表-2)。この結果、避難所は7市町、防災活動拠点は6市町から回答があり、比較的共通する項目であった。他方、医療拠点については4市とやや少なかった。また、安城市と幸田町においては、電力供給の拠点の復旧活動に利する道路を意識して指定しているとの回答があった。これらから、比較的共通する項目のある一方で、各市町の指定方針は、必ずしも一致しないことが明らかとなった。一方で、このことは視点を変えれば、各市町の実情に合わせて柔軟に指定されている表れともとれる。

表-2 対象地域の3次緊急輸送道路の指定方針(接続する道路・拠点等)

市町	岡崎市	碧南市	刈谷市	豊田市	安城市	西尾市	知立市	高浜市	みよし市	幸田町	該当数
1次・2次との接続	○	□	○	○	○	○	○	○	○	□	10
3次以外の指定道路	○	×	×	○	×	×	×	×	×	×	2
接続する拠点	防災活動拠点	○			○	○	*	○	○	○	6
	医療拠点	○			○	○	*	○			4
	避難所		○	○	○	○	*	○	○	○	7
	ライフライン					○	*			○	2

○ 回答あり、□ 回答はないが、地図上で接続が見られる、空欄は、対象の項目に回答なし

\* 西尾市は、災害復旧活動の主要な拠点のうち、県が定めた緊急輸送道路と直結されていない拠点を結ぶ路線を指定

道路 PT の取組みを進めるにあたっては、緊急輸送道路の指定及び市町境界を越えた接続を検討する際に、統一的な基準を 9 市 1 町で検討を行ってから議論をすることも考えられた。しかし、その場合は、上述の表-2 の通り、指定方針に各市町で差異が見られるなど、統一基準がまとまるまでに時間を要する可能性も考えられた。そこで、各市町で協議の結果、具体的な接続対象として緊急支援物資の輸送に関わる道路の観点から市町を越えた緊急輸送道路の接続について考えることとなった。

### 3. 基礎自治体指定の緊急輸送道路の自治体境界を越えた接続のケーススタディ

#### (1) ケーススタディの概要と道路 PT 幹事市の状況

道路 PT は、知立市が幹事市となり、知立市と周辺の刈谷市、安城市、豊田市の 3 市間で、自治体境界を越えた市指定の緊急輸送道路の接続に取り組むこととなった。知立市では、2016 年に実施した西三河研究会のワークショップ時点での緊急輸送道路の指定方針は、全ての防災備蓄倉庫を結ぶルートを選定しており、3 次輸送路の指定が他の市町に比べ多い状況だった。その後、ワークショップ等で他市町の指定状況や優先して啓開すべき道路の再検討を行った結果、後述（図-1）のより重要な拠点を結ぶルートへ絞り込む見直しが行われた。

#### (2) 市町の境界を越えた 3 次輸送道路の接続の検討

図-1 は、2020 年度までの道路 PT の取組み結果を示すものである。西三河地域における取組みの内、知立市とその隣接市である刈谷市との接続（A 地点）、安城市との接続（B 地点）、豊田市との接続（C 地点）の 3 つを示している。以下、紙幅の関係上接続が実現した A 地点及び、実現に至らなかった C 地点について、それぞれの結果の考察を示す。以下の考察を行うにあたっては、市町の物資の集積拠点（地域内輸送拠点）と北部の広域物資輸送拠点（みよし市）間の輸送を想定し、3 次輸送道路が 1 次・2 次の緊急輸送道路に準じて早期に啓開対象<sup>5)</sup>であることを前提に行うものである。

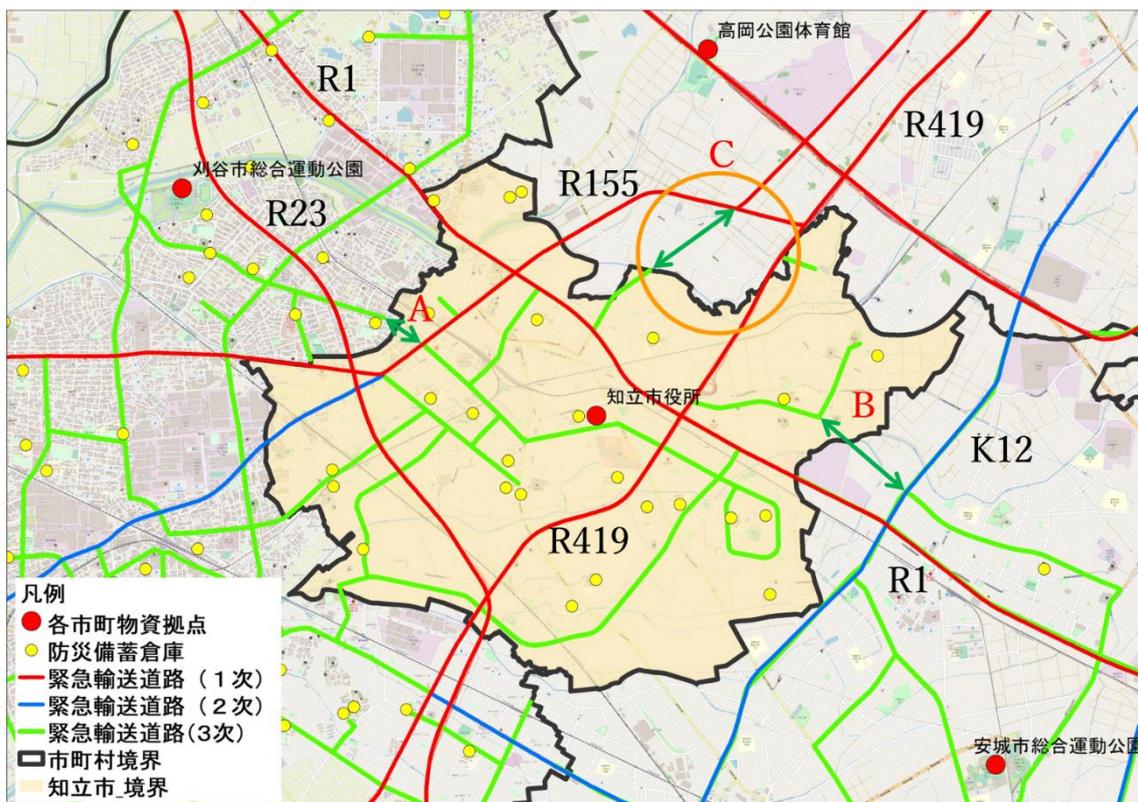


図-1 市指定の緊急輸送道路の接続に向けた取組み結果

### ①刈谷市と知立市の3次輸送道路の接続

知立市の北西部のA地点は、刈谷市との市境であり、双方の3次輸送道路が近隣まで指定されていた。2020年度における取組みにより、双方が互いの3次輸送道路を延伸し、接続することになった。この結果、知立市側から見ると、A地点から刈谷市の3次輸送道路に入り、1次輸送道路に指定されている、国道23号線(R23)の北側の地点へのアクセスが可能となる。知立市においては、既存の3次輸送道路でも、R23に接続している。しかし、南海トラフ地震の被害想定を考えたとき、震源の近い知立以南の想定が相対的により影響が大きいことが推測され、現状より北側に、1次輸送道路へのアクセス場所が増えることは、発災後の物流を考えると、冗長性が向上したと捉えることができる。一方、刈谷市側の視点から見ると、A地点から新たに指定された知立市の3次輸送道路を通り、1次輸送道路の国道155号線(R155)を経由し、より北側の豊田市内にアクセス可能となる。既存の3次輸送道路の指定状況でも、刈谷市内の国道1号線(R1)やR23の1次輸送道路にアクセス可能であるが(西まわり)、今回のA地点における双方の3次輸送道路の接続により、東まわりのルートでも、相対的に影響が少ないことが想定される西三河の北部にアクセスが可能となっている。紙幅の関係上省略するが、C地点の安城市と知立市の間でも、同様に接続が実現し、緊急輸送道路を経路とした物資輸送において、両市双方を経由する迂回路となり、冗長性の向上が考えられた。

### ②豊田市と知立市の3次輸送道路の接続

知立市の北部のC地点(図-1中の橙色の○)は、知立市側が市境まで、豊田市側は市境付近まで双方の3次輸送道路が指定されている。豊田市は3次輸送道路の市町を越えた接続について、今回の道路PTの取組み以前(2016年度のワークショップ以降)から西三河の他市町と比較して積極的なスタンスであった。しかし、2020年度取組みの中で接続を検討したもの、現時点では見送りとなった。理由としては、接続を検討していた路線の橋梁区間の耐震性について道路部局から懸念する旨の助言があったことが挙げられる。また、知立市と豊田市間のルートは、①でも示したルートが指定されていることなども踏まえて、現状では3次輸送道路の指定をしないとの結論となった。

### ③3次輸送道路の接続の取組み結果

知立市と隣接3市の市境を越えた3次輸送道路の接続に向けた取組みの結果、刈谷市と安城市(本稿では詳述は省略)の2市とは接続が実現し、広域物資輸送拠点と各市町の物資に集積拠点間の輸送において冗長性が向上する可能性が示された。一方で、豊田市との接続の検討においては、指定を検討していた路線に対して橋梁の耐震性の懸念があり実現しなかった。これは、他のルートが確保されていることが前提であることが推測されるが、本稿で紹介したケーススタディのその後に行った対象地域の各市町へのアンケート調査では、緊急輸送道路の検討過程において、沿道の建築物の耐震性を考慮する等も示されており、指定において単に接続ありきではなく、慎重な指定を行っている実態も示された。

## 4. 基礎自治体指定の緊急輸送道路の接続に向けた課題

2章で述べた通り、西三河地域の9市1町の3次輸送道路の指定方針は異なっている。取組みを進める上で統一した指定方針を検討することも考えられたが、検討に時間を要し実務ベースの取組みにつながらない可能性も考えられた。本稿が対象とした道路PTの取組みで物資輸送に対象を絞ったように、関係市町村が取組みやすい対象に絞ることで実務ベースの取組みにつながる可能性がある。実際に知立市においては隣接2市と3次輸送道路を接続し、地域防災計画の改定につなげている。しかしながら、今回の検

討の対象としたのは、「物資輸送」の観点からのみに過ぎない。「救助・医療」や「ライフライン」をはじめとした他の観点からの接続に向けた取組みを検討することも重要であると考え。また、一部の自治体において、指定において橋梁や沿道の建築物の考慮を行った上で指定を行っていることが確認されたが、現状各市町が指定している緊急輸送道路と各種被害想定との関係はまだ十分に整理されていない。これらを踏まえつつ、今後も各市町の皆さまと連携・協働を行いながら、地域の防災・減災力の向上に寄与できるよう、継続的な取組みを行いたいと考えている。

## 参考文献

- 1) 国土交通省 web サイト（道路防災情報）  
<https://www.mlit.go.jp/road/bosai/measures/index3.html>（令和3年8月10日閲覧）
- 2) 千葉啓広・幸節静奈・倉田和己・新井伸夫・野村一保・福和伸夫：市町村境界を越えた3次緊急輸送道路の接続に向けた取組み，地域安全学会梗概集 No.48，pp.151-154，2021.5.
- 3) 新井伸夫・上園智美・倉田和己・千葉啓広・福和伸夫：基礎自治体間の広域連携を実現するための課題抽出と具体的検討の促進に向けた取組み，日本災害情報学会第18回学会大会予稿集，pp.140-141，2016.10
- 4) 愛知県：愛知県地域防災計画－地震・津波災害対策計画－（令和2年月修正）年，pp.42-43,2020
- 5) 愛知県建設局道路維持課 web サイト  
<https://www.pref.aichi.jp/douroji/business/calamity/>（令和3年8月10日閲覧）

## 6. 書籍紹介

### (1) 日本家政学会編『住まいの百科事典』（丸善出版、2021.4、26,400 円）

日本家政学会編集の『住まいの百科事典』が丸善出版から刊行されました。日本家政学会は、家政学に関する研究の進歩と発展を図り、人間生活の充実と向上に寄与する目的で、1949年に設立された学術団体です。この日本家政学会の中にある住居学部会が中心となって、本事典は編集されました。編集委員長は日本女子大学家政学部の定行まり子先生です。

本事典は見開き（2ページ）で1項目を完結させるスタイルで、303項目、22のコラムが掲載された、742ページの内容の濃い事典です。全体は15章で構成され、大局的に気候風土や歴史から住まいを理解する項目から始まります。もちろん、実際に住まいを建て、暮らす際に必要な計画、構造、材料、環境、設備、需要と供給、維持管理、職能もカバーしています。また、防災教育とも関連深い住教育の章もあります。そして、12章は「災害と住まい」で筆者が編集委員となり、地域安全学会からは村尾会長による「海外の災害復興」をはじめ、多くの会員の先生方に執筆をお願いいたしました。ご多忙にもかかわらず、執筆をご快諾いただいた先生方に、この場を借りて御礼申し上げます。

私に取り組んできた阪神・淡路大震災の人的被害の研究では、居住者を守るはずの住まいが、地震時には居住者の命を奪うという現実をはじめに学びました。居住者が、自身が暮らす住まいを深く理解し、適切な住まいの防災対策や維持管理方法を居住者が身につけることにより、災害時の住まいを原因とする人的被害が防がれることを願います。

多くの会員の皆さまに、本事典をお手に取っていただけますと幸いです。

（大阪市立大学 生田英輔）





地域安全学会ニューズレター  
第 116 号 2021 年 8 月

地 域 安 全 学 会 事 務 局  
〒102-0085 東京都千代田区六番町 13-7  
中島ビル 2 階  
株式会社サイエンスクラフト内  
電話・FAX : 03-3261-6199  
e-mail : [iss2008@iss.info](mailto:iss2008@iss.info)

次のニューズレター発行までの最新情報は、学会ホームページ (<http://iss.jp.net/>) をご覧ください。